



行政と市民の関係を創造する
NPO 法人 きょうと介護保険にかかわる会

会報
 108 号
 2019/10/4

発行人 梶 宏 〒604-8811 京都市中京区壬生賀陽御所町 3-20 賀陽コーポラス 809
 TEL・FAX:075-821-0688 E-mail:npokakawarukai@helen.ocn.ne.jp

消費税アップ本当に必要か？

理事長 梶 宏

1972 年私は 38 歳。革新首長を輩出していた頃だが、その年 6 月に行われた参議院選挙で、革新の側が勝利を収め、佐藤内閣に変わり田中内閣が出発する。そういう状況の中、国会では全会一致で決まったのが、老人医療に対する 10 割給付だった。

私たちは歓迎した。だが、ほぼ 4 兆円だった国民医療費が、それ以降毎年 1 兆円ずつ増えていくことに愕然とする（ちなみに 2016 年は 42 兆円）。そこで 2000 年に出てきたのが、「医療から介護へ」という考えの介護保険制度である。

当時縁あって「呆け老人をかかえる会」に入り京都支部の世話人もつとめていた私は、認知症の舅姑をかかえるお嫁さんをはじめとする人たちの苦勞を見聞きして、「介護の社会化」をすすめることを前向きにとらえ、市民参加を旗印に、ささやかながら「きょうと介護保険にかかわる会」をたちあげた。介護施設や事業所は見事に増えてきた。認知症対策もすすんできた。

しかしまたもや財政問題がのしかかってきている。医療も介護も保険料アップは身につまされる。制度改正が行われるごとに、「利用者や家族の負担」が増え「介護の社会化」に逆行しているのではないかと危惧する。その一方、長らく 4 兆円で抑えられていた防衛費は安倍内閣になって以来アメリカからの高い買い物によって 5 兆 3,000 億円（2020 年度概算要求）。また天皇の代替わりに関する費用の便乗アップもあって、宮内庁が管理する宮廷費は、20 年前と比べて 1.8 倍（同じく概算要求）である（秋篠宮はもっと切りつめるべきだと意思表明をしているにもかかわらず）。国の借金が 1,000 兆円を超える規模からみれば些細な額ではあるが、何が無駄かの判断基準に現政府とのずれを感じる。若い人たちが年金制度に信頼をおかないような状況はそれでいいのだろうか。

「だから消費税が必要だ」という言説には、「ちょっと待てよ」と言いたい。

消費税ができた 1987 年度（このとき所得税の最高税率は 60% から 50% に減らされた）から 2018 年度までの間、総額（地方消費税を含む）は 372 兆円になる。一方

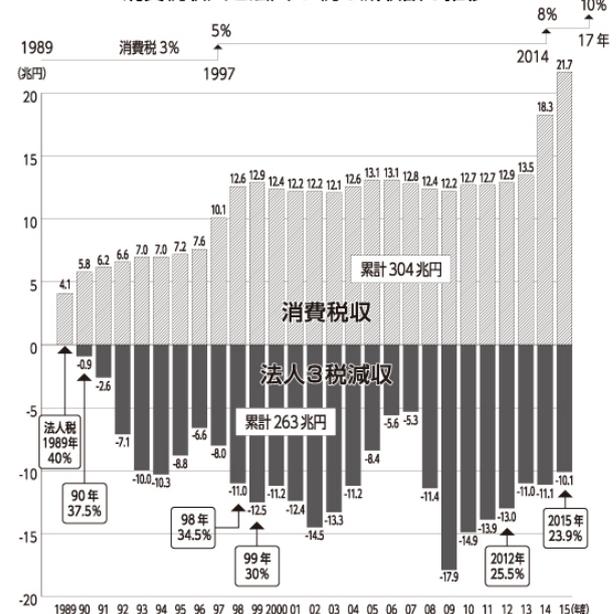
法人税は 1990 年度から 2018 年度の間、291 兆円減っている。何のことはない。消費税で増えた分の大部分は法人税・所得税の減収を穴埋めしたに過ぎないのである。鹿児島大学の伊藤周平教授は、「大部分」どころか「すべて」と表現されている（雑誌「世界」8 月号）。そして、大企業の内部留保は 450 兆円（2018 年）と最高記録を更新していると述べる。ちなみに 2019 年度末には 466 兆円と増えている。

この度の消費税アップに対する、政府の軽減措置はナンセンスとしか言えない。現場での混乱がおもいやられる。中小企業泣かせの愚策である。

深刻な問題のひとつに、介護の社会化にかかわろうとする若者が減っていることがある。他方、介護を求める側に一部とはいえ、介護労働者の勤勞意欲を削ぐことになる無理難題をいう家族もいる。

家族が介護から解放されることはいいことだ。が、「自分が助かった」で済ますのではなく、解放された分、認知症の人を支える社会全体の問題に少しは考えを及ぼすようなシステムをつくるのが肝要と思う。

消費税導入後 27 年間、法人 3 税減収・減収の穴埋めに
 消費税収入と法人 3 税の減収額の推移



「消費税をなくす全国の会」の資料から

第100回 研修会 報告

団士郎さんと考える「介護と家族」

- 日時：9月28日（土）13：30～16：30
- 会場：ひと・まち交流館京都 3階 第5会議室
- 講師：団士郎氏
（前立命館大学院教授・家族心理臨床家）
- 参加者：43名



はじめに

「まずは今日の話を楽しんでもらえたらと思っています」という一言から始まった団先生の講演。幾つあっても足りない老眼鏡、キャッシュカードを無くしたとあってあわてて失効の手続きをしたら足で踏んでいた等々団先生への親しみがギュッと増したところで自己紹介。漫画は学生時代からサンケイ新聞に連載するほど得意だったが、方向転換し京都府児童相談所に勤めるなど家族心理臨床を長くやってきた。家族療法、不登校や障がいのある子どもと暮らす家族が、どんなサポートがあると自分たちの暮らしを追い詰められずやっつけていけるか、ということに取り組んで来たとのことだった。東日本大震災支援で始めたマンガエッセイ「木陰の物語」は今年で第9集になり、累計9万部発行になる活動についても触れられた。

「家族理解」が支援・援助

今日は介護と家族というテーマだが、介護だけが人生とか、介護のことだけ知っていたらよいと思う人はいない。家族には高齢者問題も、夫婦問題も、子育て問題も、不妊治療問題も、DV問題も、児童虐待も、病人・障がい者問題も何でもある。その一つだけを取り上げるのは疑問。これまで家族相談の現場でカウンセラー、訓練トレーナーをしてきての結論は「家族理解」が支援・援助だということだった。ちまたに起こる事件を振り返ると、「誰も分かってくれなかった・・・」「私のことなど誰も知らない・・・」という声が聞こえてくる。だったら、まずは身近な人を「理解」することが大切。

「起こらずに済んだこと」に注目

「起きたこと」に対しては、その問題や症状・病状が気になるし、原因をさぐることに一生懸命になって、結果、そのことばかり考えることになる。これでは大した成果は上がらない。一方、「起こらずに済んだこと」に注目することは少ない。なぜなら起こっていないから。しかし起こらずに済んでいるあらゆることに対し、良かった、上手くいったと認め、褒め、言語化することが大切である。特に家族の中で「よくやってるね」の一言はお金もかからないし、言われた方は気持ちが良い。このような家族が増えることが望ましい。

問題を起こさずに頑張っている家族にも注目したい。家族相談の現場ではその人への理解から始まる。訴えを聞くことで大方のことはわかる。私は治療家ではないので相談者としてこの人に何をしたらいいのか、今できることは何かを考え相手の全体を見ながら相談にのっている。

私たちの暮らす世界

この世界はいろんなことが複合して出来上がっている。何も問題を抱えていない人はいないから、安易にポイントを絞ってはいけない。しかし世間にあふれている「専門家」は問題を細分化、専門化して、自己流のやり方に自信を持っているようだが、それで問題解決につながっているとは思えない。原因と結果を固定的に分けずに、相互に関係しながら変わっていくというシステム論という考え方もある。思い込めない、決めつけないことが大切。時と共に、事態はますます複合化していつているのだから。

・・・・・エクササイズ・・・・・

コミュニケーションの中で「聞くことの持つ意味」を実感するエクササイズ。2人一組で、各々が「最近気になること」を4分間しゃべります。聞く側は、1分半はbadな態度（スマホをいじったり他を見たり）、2分半はgoodな態度（集中し、うなずくなど）で、その差によるしゃべり手の気持ちの変化を話し合いました。goodな態度で聞くことが「理解」を深めることを体験しました。

（冬木美智子 記）



9月28日 第100回研修会 アンケートの抜粋です

- 聴衆を全く飽きさせずに示唆に富んだ話を次から次へと聴かせて頂き、本当に素晴らしいひとときを過ごさせて頂きました。
- 特養で介護職をしています。入居者の家族への対応に煮詰まって今日の研修に参加しました。起きていることをもう一度考えながらお話を聞いていて、家族理解の視点が足りないことに気付きました。職場に戻ってしっかりと職員間で共有して対応を考えていきたいと思います。お話を聞いて、頭の中の整理ができました。ありがとうございました。
- 楽しいお話をありがとうございました。介護問題に直面しているが、物事の見え方や捉え方で方向性が変わる。レッテルを貼らない、相手を知り、聴く耳を持つことが対人援助には重要なんですね。家族、近隣、友人、社会の対人関係に活かしていきたいです。勉強になりました。
- 「介護の問題を家族の中という立場でとらえる」。分かっていたつもりながら目からウロコでした。「聴くこと」人間関係の基本としておもしろかったです。
- 良質な落語を聞いているような感じになった。面白かった。
- 岡先生のお話素晴らしかったです。軽妙な語り口で内容もまったく「そのとおり！」と膝を打つことばかりでした。
- 岡土郎先生の講演会に参加したいと思いつけて、やっとお聞きできて良かったです。今まで以上に息子の話に耳を傾けようと思いました。それも good な聞き方で・・・



研修会 100 回を振り返って

諸先輩の後を引き継ぎ研修担当になったのは、かかわる会に入って間もなくの2009年の春のことでした。以来10年間、毎月の研修会を欠かさず開催して数えて100回を迎えることになりました。気が付けば、当時の理事さんたちは梶理事長と私を除いてすっかり変わっています。

研修会は毎月の会場取り、広報、資料の印刷、ポスター、当日の受付、司会、記録等々会員のみなさんの協力で成り立っています。そして当会の市民活動の趣旨に賛同し気持ちよく協力をしていただいた講師の先生方の存在でした。お一人お一人の顔が浮かびます。さらに忘れてならないのは、研修会で使用するひと・まち交流館京都の会議室が無料ということです。財政力の乏しい当会にとって、ありがたい公共施設です。

研修会の参加は申し込み制ではないので、当日はぶっつけ本番で市民の方が来てくださいます。

テーマによってずいぶん出足が違います。よかった、面白かったとの声を聞くと喜びが倍増します。参加者が少ない時は講師に対し申し訳なくなります。テーマ選びには正直悩むときもありますが、理事会で英知を集め決めていきます。時機を得たもの、医療・年金・介護保険関係、高齢者問題等々、次々と話題に事欠くことなく今まで来られました。常にアンテナを張っている感はありますが・・・。1回目からの研修会を辿っていくと、オンブズマン養成セミナー、京都府第三者評価事業への参画、情報公表制度、数次にわたる介護保険改正への対応、総合事業の開始等々まさに介護保険制度の歴史がうかがえます。介護保険制度は今後も大きく変わることと思います。当会のスローガン「納得のいく介護保険、市民と行政との架け橋」を念頭に200回を目指して、工夫を重ねて、邁進していきたいと思っています。お世話になった皆様本当にありがとうございました。

(中川慶子 記)

「マイケアプラン研究会の目指すものと活動内容について」

マイケアプラン研究会 世話人代表 小國英夫



マイケアプラン研究会は1999年8月にスタートして20周年を迎えました。その間マイケアプラン研究会とは「ケアプラン自己作成に関する研究会」なのか、「自己作成者の実践組織」なのか、「介護にかかわるいろいろな人の自由な集まりなのか」と、何度も議論をしてきました。

そして数年前に「誰もが介護が必要になってもより良く生きられる社会を目指す市民運動体」ということで何となくまとまりました。また、毎月のニュースのタイトルには「マイケアプランは高齢者の権利宣言」とも書いています。介護が必要になっても最期まで自分の人生の主人公として、市民として、権利主体として生きていきたい(生ききたい)ということです。

マイケアプラン研究会には「マイケアプラン5カ条」というのがあります。会創立後まもなく作ったものです。ご紹介します。

- 第1条 マイケアプランは、生活のプランであり、人生のプランです。
- 第2条 マイケアプランは、わたしのたのしい食事です。
- 第3条 マイケアプランは、失いかけた気力を取り戻すこともできます。
- 第4条 マイケアプランは、よい家族関係、よい人間関係をつくりまします。
- 第5条 マイケアプランは、住みよいまちをつくりまします。

これを見て「なるほど」と思う人もいれば、「なんのこっちゃ」と思う人もいると思います。特に第2条についてはよく「何のこと？」と言われます。解釈は皆さんにお任せします。

創立当時は親や連れ合いの介護をしている人、してきた人、ケアプラン自己作成の実践者、専門職として或いは事業者として介護に関わっている人等々でしたが、今では当時の会員は80歳前後になり、いよいよ自分の介護を考えなければならぬ状況になってきています。既に80歳を過ぎて要介護2の人も毎月の世話人会や例会に欠かさず参加しています。

活動は毎月第3金曜午後の定例会、9月を除く毎月の「My Care Plan News」の発行、適宜、勉強会、読書会、出前講座、相談支援、各種イベント等を行っています。年会費は3,000円です。現在約80人の会員がいます。

2016年12月に「きょうと介護保険にかかわる会、京都ヘルパー連絡会、高齢社会をよくする女性の会・京都、NPO 助けあいグループりぼん」と一緒に「よりよい介護をつくる市民ネットワーク」を結成し、現在、第4回シンポジウム(10月27日開催)を準備中です。ネットワークの代表はかか

わる会の中川慶子さんです。

マイケアプラン研究会では去る9月8日に「創立20周年の公開企画」を開催いたしました。タイトルは「だんだん介護が遠くなる 介護ってなに？」でした。100人近い参加者があり、午後は小グループに分かれて「おひとりさまを考える」というテーマで活発な話し合いが行われ大変好評でした。



だまったらあかん！第4回シンポジウム

テーマ：当事者が語る『介護保険のええとこ！ 不安なとこ！』

日時：10月27日（日） 13：30～16：40

会場：ひと・まち交流館京都 大会議室（定員 300 名）

問題提起・コーディネーター：岡崎祐司氏（佛教大学社会福祉学部教授・学部長）

パネリスト 6 名 すべて当事者が発表します

参加費：300 円 事前申し込みはいりません。

◎主催：よりのよい介護をつくる市民ネットワーク

「きょうと介護保険にかかわる会」「京都ヘルパー連絡会」「マイケアプラン研究会」

「NPO助けあいグループりぼん」「高齢社会をよくする女性の会・京都」

◎きょうと介護保険にかかわる会が今年も事務局を担当しています。お手伝い歓迎！

◎みなさん、周囲に呼び掛けて昨年を上回る参加者で大会を盛り上げましょう。



第 101 回 研 修 会 案 内

権利としての介護保障??

ドイツの介護保険と日本の介護保険

今の日本の介護保険制度のありようをドイツの状況と比較して、今後日本がめざすべき、そして実現すべき「介護保障」のありかたを考えましょう。

日時：11月23日（土・祝） 13：30～16：30

場所：ひと・まち交流館京都 3階 第5会議室

講師：木下秀雄氏（龍谷大学法学部教授、大阪市立大学名誉教授、専門は社会保障法）

ドイツとの比較で日本の生活保護法、介護保険法等を研究。

『ビスマルク労働者保険法成立史』（単著）

『若者の雇用・社会保障—主体形成と制度・政策の課題』（共著）ほか

参加費：一般 500 円 会員 300 円

友好団体イベント案内

高齢社会をよくする女性の会・京都 30周年記念講演会

日時：11月16日（土）13：30～16：30 会場：京都アスニー

テーマ：人生100年時代を生きる 覚悟と快樂

講演：樋口恵子氏（評論家・NPO法人高齢社会をよくする女性の会 理事長）

その他：終了後同じ会場で会員限定の懇親会を開催 問合せ：075-441-1266（那須）

第20回記念 ホームヘルパーのつどい in 京都 2019

日時：11月17日（日）10：30～16：30 会場：京都社会福祉会館（二条城北側）

内容：午前の部 全体会「学んで 語って 笑って 明日の力を養おう」寸劇・落語も

午後の部 分科会「介護保険20年」「介護カフェ」「排泄の悩み・・・」

問合せ：075-813-4800（藤井）

主催：京都ヘルパー連絡会 協賛：ホームヘルパー全国連絡会



TV では自動運転車の実用化の話、明るい未来という論調で取り上げています。果たしてどうなのでしょう。車に限らず、現代文明は安楽を是とし負荷を排除する方向に邁進しますが、それによって人間の本来持っていた心身の能力が衰えて行くことについては無頓着です。

私は長く青少年に関わる援助職をしていたこともあって、人の負荷を肩代わりするような科学のあり方には懐疑的です。むしろ、青少年の成長にとって負荷は必要不可欠、負荷のないところに心身の成長はないとまで思っています。

昨日までできなかったことが、今日できるようになっているというのが若者の特徴です。すでに能力を獲得しているのに発揮する場を奪ってしまえば、成長の芽は摘み取られてしまいます。過保護は厳禁、成長に合わせてサポートを減らし、適度な負荷をかけ続けることが肝要です。

母がグループホームに入るようになってから介護職の仕事ぶりを間近でみる機会が増えましたが、この「適度に負荷をかける」という考え方は高齢者に対しても有効だと感じています。

昨日までできたことが、今日はできなくなっているというのがお年寄りの特徴です。若者と正反対ですが、過保護がよくないことは

共通しています。いまある能力を維持するためには、ひとりひとりに応じた最少限度の支援にとどめ、残っている能力を最大限に使うよう負荷をかけ続けなければならないはずで

す。そんな視点から見ると、現在の介護施設はあまりに快適すぎるかもしれません。バリアフリーは素晴らしいことですが、人それぞれに耐負荷能力は異なるので、それを一律に当てはめれば問題が生じます。たとえば段差がなければ段差を乗り越える力は失われますし、温度管理が行き届けば、体温調節の機能は衰え四季の移ろいを感じる感性も奪われます。上げ膳据え膳、至れり尽くせりの受け身の生活は、快適かもしれませんが自発性という大切な力を奪いお年寄りを無気力にしてしまいます。健康寿命を考えるのであれば、ひとりひとりの能力に応じた役割（負荷）を付与することが大切なのです。

安全第一の退屈な公園を飛び出して、火が焚けて穴も掘れるワイルドな公園で子供を育てようという冒険遊び場というのがありますが、そこに、これからの介護施設を考えるヒントがあるような気がしてなりません。あるいは旭山動物園の飼育法にも学ぶべきものがありそうですが、動物と一緒にすると叱られそうなのでこのへんで。

そこで、防災に関する豆知識「食料・飲料・生活必需品などの備蓄」から
① 飲料水 3 日分（1 人 1 日 3 リットルが目安）
② 非常食 3 日分の「ご飯・ビスケット、板チョコ、乾パンなど」
③ トイレレットペーパー、ティッシュペーパー、マッチ、ろうそく、カセットコンロとガスボンベなど。皆さんは何品ほどの準備がありますか。
私は・・・です。「備えあれば憂いなし」と言いますので、災害時の備えのことについて考えてみる機会としてください。（K・A）

編集後記

朝夕に秋の気配を感じるようになりました。今年の夏は異常な酷暑と多湿により、体調を崩された方も多かったのではないのでしょうか。また、8 月末から 9 月にかけて大型で強い勢力の台風の直撃や接近にともない、人的・建物・農作物等重大な被害をもたらしました。心よりお見舞い申し上げます。

新入会員紹介（9 月入会）

米田 恵美 さん
新谷 雅子 さん
大字 奈三子さん

新ホームページ
をご覧ください！

<https://npokaigo.or.jp/>